

■ 「褒められ中毒者」は「寄生虫」となり、
そして「温もり泥棒」となる

修正： 2032.01.01

投稿： 2032.01.01



●「褒められ中毒者」は「寄生虫」となり、

そして「温もり泥棒」となる①

奪う人のことを**餓鬼**(がき、転じて子供)と言います。

子供は与えられなければ生きていけません。

ゆえに人から(特に親から)与えてもらう(奪う)ことを考えます。

つまりガキとは、出会う人みな**母親に見えてしまう**人であり、

しかし「**世間はお前の母親じゃねーよ！**」という話です。

ガキは与えてもらおうと考える以上、常に**クレクレ**ですから、

誰もそんなガキとは積極的に関わろうとしません。

とはいっても、本当にまだ子供なのであれば、

周りの大人も助けてくれることでしょう。しかし、

大人になって「**クレクレ、ヤダヤダ、ワーンワーン**」では、

迷惑この上ありません(というよりただただイタイ…)。

そういうイタイ人(見た目は大人、中身は子供)は、

クレクレと言えば与えられてきた**子供の頃からのおいしい記憶**を頼りに、

大人になってもクレクレと言い続けているわけです。

そうして「社会は冷たい！(*´Д`)」と愚痴をこぼされても

「知らんがな…(-_-メ)」という話であり、誰も相手にしなくなります。

やがて、ガキは**ガキ同士**でつるむようになります。

というのも、そもそもガキとは奪う人のことなので、

与える人はガキを避けたがります。そしてこの

「奪う人」と「与える人」は、驚くほど綺麗に別れています。

まるで中学や高校のクラスメートにおける、

「モテる集団」と「モテない集団」です。

つまり、ガキはガキと仲良くなる、というより、

ガキはガキとしか仲良くなれないので仲良くする、といった感じです。

そうして今日も、この広い世界のあちこちで、
与える人同士で与え合ったり、
ガキ同士で奪い合ったりしているのです。

(続)

//=====//

●「褒められ中毒者」は「寄生虫」となり、 そして「温もり泥棒」となる②

「愛は金じゃ買えない」と言われています。で、

「愛と金、どっちが大事ですか？」って、
そんな分かり切ったことをいちいち聞いてくるなという話で、
金の方が圧倒的に大事です。なぜなら、

愛がなくなっても死ぬことはありませんが、
金がなくなると、食料すら買えなくなって、
最悪、**飢え死にする**からです。

金は生きていくために必要なものです。
対して愛は、**よりよく**生きるために必要なもので、
別になくても死にはしません。

結婚できないからといって死ぬことはないのです。
金さえあれば生きていけます。どうぞご安心ください。

ちなみに、多くの人が愛と言うとき、
そこには性別が関係しています。そうであるなら、
それは「愛」ではなく「恋」であり「性欲」です。

というのも、性欲であれば、相手を愛するためには、
相手の性別が自分のそれと異なっていなければいけません。
もし一方の性別が反転すれば、もう相手を愛せなくなります。
(そんな脆いものを愛とは言わず、ゆえに恋や性欲と愛は別物です)

そうして子供を産んで子供を育てていくわけですが、
そのためには何かにつけて金がかかります。
だから金が大事なのです。世の中、金、金、金。

一応、補足しておきますが、「愛は金じゃ買えない」の真意は、
「効率的要素と効果的要素は互いに独立である」
の意味だと思われます。これについて、機会があれば解説します。

(続)

//=====//

●「褒められ中毒者」は「寄生虫」となり、 そして「温もり泥棒」となる③

世の中には「意識高い系」と呼ばれる人たちがいます。
人に褒められるためなら、いくらでも寿命を削れる人たちです。
「褒められ中毒者」と言っても過言ではないでしょう。

こういう人たちは、やたら「ミーティング」が好きです。
なぜなら、彼ら彼女らにとってミーティングとは、お喋りを通して

自分の存在価値を他者に認めさせる**チャンス**だからです。

こうした背景もあって、
採用面接でイキイキしている人は**ハズレ**の可能性が高く、
絶対に採用しないようにしています。

どういう会話をすれば注目を浴びるかも熟知しているのでしょう。
「**それじゃダメなんです！**」とやたら否定を多用する傾向にあります。
全否定から入ると**相手は意識を向けざるを得ない**ので。それで仕方なく
話を聞くと、結局は部分否定でしかないことが多いですが。

そうして、自分の話を聞いてくれる人に寄生することで、
人から温もりを奪って、心を温めて生きているのが、
意識高い系の人たちです。つまり、**意識高い系**とは、
まるで「**寄生虫**」であり、「**温もり泥棒**」でしかありません。

って、どうしてここまで意識高い系を痛烈に批判するか
というと、私も学生時代は痛々しい意識高い系であったから
であり、その反省があるからです。

学生時代は、なぜ社会人は、そこまで
意識高い系の学生を嫌うのか、理解できませんでした。が、
仕事するにあたって、**自己主張の強い人**はマジで**邪魔**です。

そもそも職場は、あなたが人として輝く場所でも、
あなたが人として上になる場所でも何でもありません。
職務を通じて成長するのはありますが、
職場を自己実現の場だと捉えている人は、
一歩引いて考えた方がいいでしょう。なぜなら、

職場とは、単に、あなたの労働力を社会貢献に変換する、
いわば、**労働力と労働報酬の取り引きの場**でしかないからです。
(少なくとも他人からはそうとしか見られてません)

これを勘違いして、職務に全力を出しすぎて、
結局燃え尽きて、会社を恨みながら辞めていく

意識高い系の人が多いこと多いこと。

(続)

//=====//

●「褒められ中毒者」は「寄生虫」となり、 そして「温もり泥棒」となる④

カウンセリングでは、

「相手の感情や苦しみに焦点を当てる」

ことが重視されています。

「感情」や「苦しみ」というのは、相手にとっては「本物」です。

「我思う、故に我在り」といったところでしょうか。

つまり、たとえ相手の主張が間違っていようと、

相手の感じていること自体は、相手にとっては**真実**だということです。

苦しんでいる人からすれば、苦しみは否定できない事実なのです。

カウンセリングではこの感情や苦しみに焦点を当てます。

いわば**共感**を目指したコミュニケーションです。

夫、妻、親、子供、上司、部下、教師、生徒、

立場が違えば感じることも違ってきますから、

「自分が感じていることは相手も感じているはずだ」

との前提でコミュニケーションしていれば、

どこかで**ズレ**が生じてしまうことでしょう。だからこそ、

自分を基準に相手の言い分を頭ごなしに否定したりすることなく、

思いやりをもって、相手の感情や苦しみに焦点を当て、

相手の立場を理解していきましょう、という話です。

その上で、反対のことを述べますが、
繋がりがたくない人と**繋がらないようにする**ためには、
相手の感情や苦しみに**絶対に理解を示してはいけません**。
※繋がりがたくない人として、ここでは

「褒められ中毒者」「寄生虫」「温もり泥棒」を取り上げております。

理解すればもっと理解してもらおうと近寄ってきますし、
口喧嘩になれば何が何でも言い返そうと躍起になります。
そのような粘着質で面倒な人と仲良くならないようにするためには、
「与えず、奪わず、受け取らず」を徹底しなければなりません。

人間関係は、**作るよりも切る方が難しい**のですから、
最初から関係を作らないに越したことはありません。
友達関係だろうと、男女関係だろうと、何であろうと。

(完)

//=====//

Web サイト：

心を力学する ―原理・原則に基づく生き方を考える―

著者：

時無 和考(Tokinashi Kazutaka)